

「プライベートでも 坂川美女丸」の プロデューサーとしての 自分を常に意識していますね」

「ヘアスタイルからファッション、メイクまで独自の雰囲気を出す坂川さん。その表現方法にはアーティストとして、どんな狙いが隠されているのか。今回のインタビューでは、そんな坂川さんの表現者としての素顔に迫ってみた。

行った時に、一番安くて一番インパクトがあるのが、古着の晴れ着だったんです。衣装が派手になると、どうしてもメロムもそれに合わせる必要があり、それで派手なメイクもするようになりましたね」

ステージドリンクでもワイングラスを置いたりね(笑)」

「アーティスト＝表現者として、常に考えていることはありますか？」

「当時から『キッス』や『クイン』など、今でいう『ビジュアル系』のロックバンドが好きだったというのですが、そのようなバンドの影響も強い？」

「自分の中で、ロックミュージシャンというのは非日常の世界の人、という意識はありますか。自分がアーティストとしてどう見られたいかということを考えて時に、自分が憧れた、そういう『ロックスター』のように見られたいと思っています。ステージでの衣装や演出、パフォーマンスを含めて

「元から派手な衣装やメイクをすることが好きだったわけでは無いんですよ。バンド活動を始めた時は、ちょうど『イカ天』ブームの頃。歩行者天国には10m間隔でバンドがひしめき合っている状況で。その中でどう目立っているか、というのが最初の課題でした。そこで、衣装を選びに古着屋に

「アーティスト＝表現者として、常に考えていることはありますか？」

「アーティスト＝表現者として、常に考えていることはありますか？」



Photos/Hideaki Nabatani

「接生地屋さんに行つて自分で選ぶようにしています。ステージではすごい量の運動をするので、見た目だけでなく、生地も重視しているんです。デザインはゴージャスで非日常的なもの、それでいて下品ではない派手さがある、というギリギリのところを狙っています。カラーも紫や黒、白など原色系のものが多くですね。プライベートの服装も結構同じようなテイストのものが多くです。ステージ衣装がおさがりになると普段着になるって感じですね(笑)。ある意味、東京の街を歩くというのにはステージと変わらないですからね。こういうこだわりがなくなったらアーティストとして終わりだと思ってしまう。それは楽曲へのこだわりについても同じですね」

「20代後半から30代前半の女性ファンが多いと思うのですが、その年代の女性について人間性を高めるうえでアドバイスをいただけますか？」

「仕事以外で、何か生活の中心になるような熱中できるものを見つけてほしいですね。その人が持っている興味とかや

「りたいことって仕事以外にもいっぱいあると思うんです。プライベートの部分でそういう自分の感性を生かせる場を自分で作ってあげることは、女性として、人間として、美しくなるという意味では大事なことです。そういうものを見つけている人って躍動感が出てくるし、人間的にも魅力的になつていくと思うんですよ。その熱中できることが音楽であれば、うれしいですけどね」

「自分という商品の価値を高める、それはアーティストに限らず、一般社会での生活においてもすごく大事なことです。流行に左右されるのではなく、いかに自分らしいスタイルを手に入れるか。それは、どれだけ自分自身をうまくプロデュースできるか、ということに似ているのかもしれない。」



NEW RELEASED CD

坂川美女丸氏の
ソロ第一弾
アルバムを紹介!



- 坂川美女丸
「ソリティア」
(ZERO LABEL
より発売中)
- 1 Overture
 - 2 O-RO-CHI
 - 3 December Steps
 - 4 Gutten!
 - 5 Siesta
 - 6 Sundown

「朝の〴〵さで今日も一日ガンバルぞ!、でも、おやすみ前の〴〵今日もいい夢みれるかな……、でも、あなたの一日のサイクルの中で句読点になれるような、そんなアルバムです。なぜなら……ソロアルバムを出すというのはある意味では〴〵自分の内面をさらけ出す、ということでもあり、長年大切にあなたためてきた曲であればあるほど、自分の日記

を他人に暴露するような恥ずかしさを伴う部分も実はあります。でも他人の〴〵恥ずかしい部分、を覗き見ることによって、なんだか気分的にリフレッシュできることってありませんか? (笑) コンピュータでプログラムされた音が氾濫するこんな時代だからこそ、ギターの一音の〴〵色気、にこだわって創りました」 (坂川さん談)

Solitaire
¥2,100
75-0484-00